

課題別評価表(2)

取組課題 小中一貫教育・保幼小の連携	担当名・指導部名／担当者名 小中一貫教育担当／落合 潔史	評価方法	教職員アンケートを中心とする 教職員による自己評価 (項目により対象の幅は異なる)
取組の柱 1. 一小一中学校区という特性を活かした小中一貫教育の推進 2. 新入児のスムーズな学校生活適応につながる保幼小の連携 3. 小・中学校と保護者、地域住民との交流を深め、三者が協力した小中一貫教育の推進	実態把握 小中教職員間の交流では、一昨年から6つの推進部会を開催し、小中それぞれの取組や児童・生徒についての情報交換、活動計画の検討・確認を行っている。また、小中合同授業研修会を開催し、互いの教育実践の理解を図っている。児童生徒交流では、あいさつ運動、人権フォーラム、クラブ活動体験、中学校生活説明会などの機会をもち、中学校生活へのなだらかな接続につなげる取組を進めている。 保幼小の連携では、近隣三幼保育園との情報交換を密にするとともに、次年度入学予定の園児を小学校に招いての交流会を行っている。 学校と家庭・地域との交流・連携では、「小中合同地区懇談会」「ふれあいまつり」「小中合同講演会」等に積極的に参画し、保護者・地域住民との連携に努めている。	達成度の判断基準	教職員の評価の平均 A : 3.5以上 4.0以下 B : 3.0以上 3.5未満 C : 2.5以上 3.0未満 D : 2.5未満

評価項目 (具体的な取組)	評価基準	達成度 ※網掛けは昨年度			
		中間	中間	年度末	年度末
1(1)6つの推進部会ごとに小中学校の教職員が連携を密に取り、それぞれの推進部会ごとの計画に添って、取組をすすめる。	一小一中の特性を活かし、情報交換や課題解決に向けた取り組みを話し合うことで、9年間を見通した活動を展開することができた。(教職員アンケートからの評価)	3.4 B	3.4 B	3.7 A	3.5 A
1(2)クラブ活動体験・授業体験教室などの行事の実施や、掲示板による情報の提供を通し、児童が中学校生活を不安なく円滑にスタートできるような取組を行う。	中学校と打ち合わせを十分行うとともに、多くの児童が満足となるように取り組むことができた。(事後の児童アンケート結果に基づいた教職員アンケートからの評価)	3.5 A	3.4 B	3.8 A	3.6 A
2.幼稚園教員・保育所保育士との交流の場をもち、入学児童のスムーズな学校生活のスタート体制に活かす。	園からの情報を収集し、児童の実態にあった必要な支援について話し合いを持ち、入学後のスムーズな学校生活適応に活かすことができた。(教職員アンケートからの評価)	3.7 A	3.5 A	3.7 A	3.6 A
3.学校だより・ホームページ等により、中学校区での進捗状況を積極的に情報発信するとともに、PTAや地域、各種団体が主催する行事に参加し、地域住民との交流を深める中から、小中一貫教育の課題やニーズをつかむ。	学校だより・ホームページ・学校掲示板等にて分かりやすく情報発信するとともに、「小中合同地区懇談会」や「小中合同講演会」等、保護者・地域住民と交流する機会を通じて、小中一貫教育に関わる情報収集・情報提供をすることができた。(教職員アンケートからの評価)		3.6 A		3.7 A

達成度については、 A:十分に達成できた B:おおむね達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

中間評価		年度末評価		次年度への申し送り
9月末の達成状況	総合評価	12月末の達成状況	総合評価	
4月19日の南が丘中学校区小中一貫教育推進会議に始まり、本年度も6つの推進部会ごとに担当教職員がお互い、連絡を取り合い、取組を進めてきた。英語・人権教育・特別支援教育は小中合同研修会を開催するなど、9年間を通して子どもたちを見ていくという思いを共有しつつある。ただし部会の部長・副部長同士の連携で保っている面もあり、全員の教員が参画していける機会にと、夏季休業期間中に一斉部会の日を設けた。幼保間でも教員による授業参観や入学後の情報交換会などを行っている。児童アンケートをとる行事は2学期以降のため、児童の満足度を計る代わりに、情報掲示板の活用について評価した。小中それぞれの情報掲示スペースにより、お互いの情報をカラーの掲示物を通して情報発信に努めてきた。また、小中一貫教育に関わる活動を実施したときには、その度ごとにホームページにも掲載してきた。	B	1(1).2学期には、小学校で英語科の授業公開、合同研修会を実施した。合同人権集会および人権フォーラム、1学期に続き2学期も小中合同挨拶運動を実施し、児童生徒間の交流を行った。他にも、推進部会ごとに情報交換を行いながら、取組をすすめてきた。ただし、合同避難訓練は、雨天等により二度にわたり実施できず、中止となった。 1(2).中学校クラブ活動体験会は、希望者のみ参加の土曜活動として実施した。「よかった」と答えた参加児童は91%にのぼり、「中学校やクラブが楽しみなった」「先生や先輩が優しく嬉しかった」などの感想を得た。3学期には、授業体験教室を企画している。 2.保幼小の連携では、保育・授業参観、職員同士の交流会をもち、今後、新入児童の引き継ぎのための聞き取り、子ども同士の交流活動を実施する。 3.取組は随時、ホームページに挙げ、情報発信に努めている。11月には県と市の総合防災訓練に児童生徒職員が地域住民とともに参加した。	A	1(1).小中一貫教育担当者及び各推進部会担当者(部長・副部长)をはじめ、小中学校全教職員間の連携を密にする。 1(2).児童・生徒間の満足度の高い取組を行う。 3.「取組の柱」3について、具体的にどのように推進するか、評価基準に示す。

総合評価については、 A:達成度の過半数がA C:達成度の過半数がCまたはD B:AとCの間